

[調査・研究報告]  
「被爆76年学生平和意識オンライン調査」の集計結果

川野 徳幸  
広島大学平和センター  
ファンデルドゥース ルリ  
広島大学平和センター

[Report]  
Preliminary Results of the 76th Anniversary Online Survey  
on the Students' Perceptions of Peace

Noriyuki KAWANO  
The Center for Peace, Hiroshima University  
Luli van der DOES  
The Center for Peace, Hiroshima University

**Abstract**

This report offers preliminary results of the Survey of Students' Perceptions of Peace conducted in the 76th year after the atomic bombings of Hiroshima and Nagasaki. The survey was planned and executed jointly by the Yomiuri Shimbun and the Center for Peace at Hiroshima University between April and July 2021. Eight universities across Japan with diverse student populations participated. The purpose of the survey is to elucidate the students' perceptions of the current global political climate and the prospect of world peace. Special focus is given to conveying the atomic-bomb experiences of Hiroshima and Nagasaki and advocating for nuclear disarmament, which the survivors (a.k.a. *hibakusha*) have campaigned for and wish to pass on to the younger

generations. Only the issues pertinent to nuclear disarmament is highlighted in this interim report.

## 1. はじめに

本稿では、読売新聞と広島大学平和センターが共同で実施した「被爆76年学生平和意識調査」の回答集計結果を報告する。この読売新聞社との共同事業である学生の平和意識調査は、2020年より開始した。この調査の目的は、被爆者が「核なき世界」の実現を願う中、将来を担う学生が被爆の実相や核兵器を巡る現状、世界情勢や世界平和について、どう考えるのかを検証するためのものである。2020年の調査においては、広島大学・長崎大学の両大学の1年生401名を対象に実施し、その結果は、別稿にて『「被爆体験継承の可能性を探る－被爆75年学生平和意識調査」の多領域横断型研究－』<sup>1</sup>としてまとめた。ここでは、原爆投下に関する史実の基礎知識、被爆の継承に関する知識と意識、被爆地訪問や被爆体験証言者との面会の有無や核兵器保有・使用に関する知識と意識を精査し、それらの特徴、傾向と相互的影響を考察した。是非、参照いただきたい。

本稿では、巻末資料の設問一覧における問1～31および問33の集計結果のみを紹介する。問32および問34の自由記述の定量・定性分析や2020年度調査結果との比較を含めた総合的な考察は、別稿にて報告する予定である。本稿におけるアンケートの集計結果の報告により、「被爆体験の継承」を除いた今日の学生の「原爆に対する理解度」、「対原爆観」、「核兵器禁止条約への関心・評価」に関する意識の傾向を知ることができる。

## 2. 対象と方法

本調査報告で集計したデータは、2021年4月から7月にかけて日本各地の8大学の協力を得て、読売新聞と広島大学平和センターが共同で実施したアンケート「被ばく76年学生平和意識調査」によるものである。本アンケート調査は、北から順に、北海道大学、明治学院大学、明星大学、関西大学、広島大学、長崎大学、沖縄国際大学、琉球大学の学部一年生968名を対象とし、汎用オンラインアンケートプラットフォームであるQooker（日本名：クッカー <https://www.qooker.jp>）を用いて実施した。アンケートは、回答者の属性を除いた31問（選択式26、記述式5）により構成され、所要時間は10分程を想定して作成した。設問内容は、回答者の属性（問1～4）、広島・長崎の被爆に関する基礎知識と

<sup>1</sup> ファンデルドゥース ルリ・川野徳幸（2020）、被爆体験継承の可能性を探る－「被爆75年学生平和意識調査」の多領域横断型研究－、『広島平和科学』42、pp.145-173

知識源（問5～9）、被爆地訪問経験や被爆地への興味の有無（問10～11）、原爆投下の意思決定に関する見解（問12、13）、被爆体験継承に関する設問（問14～20）、核兵器についての知識および意識（問21～31および33）、核兵器に関するイメージと非核運動における日本の影響力に関する自由解答（問32、34）、そして、総合的な平和観に関する自由記述式設問（問35）によって構成されている。巻末に設問の一覧を示す。なお、回答は統計的に処理され、特定の個人が識別される情報として公表されることはなく、読売新聞の紙面と広島大平和センターの調査・研究目的以外に使うことはないという了解のもと実施している。

既述の通り、本稿の目的は、現在の学生の「原爆に対する理解度」、「対原爆観」、「核兵器禁止条約への関心・評価」に関する意識の傾向を概観することであり、「原爆被爆体験の記憶・継承」については割愛する。今後、各回答結果における特徴、各回答間の関連性、各回答と回答者の属性との関連性、あるいは、これまで筆者の一人ファンデルドゥースが志向してきた多領域横断型によるテキスト分析などを行う予定である。なお、集計は、読売新聞大阪本社広島総局（主担当：山本慶史記者、現在は大阪本社文化部）の協力の元に回収され、広島大学平和センターで研究の目的に合わせて再集計したものである。

### 3. 結果

本アンケート調査は、次表に示す8大学の協力を得て、2021年4月から7月にかけて実施した。但し、9割以上のアンケートは同年6月に実施している。表1は、実施大学、対象者数、性別を示している。なお、本表はアンケート設問1に対する回答結果を含んでいる。

表1 アンケート実施大学、対象者数、性別

所属大学	対象者数	男性	女性	その他・無回答
北海道大学	118	75	43	0
明治学院大学	148	46	99	2
明星大学	58	38	17	3
関西大学	265	179	82	4
広島大学*	211	133	77	1
長崎大学	92	22	69	1
琉球大学	56	16	40	0
沖縄国際大学	20	6	15	0
合計	968	515	442	11

\*単位互換制度を利用した鳥取大学生1名を含む

表2 回答者の年齢（設問2）

	平均	標準偏差	最頻値	最頻値の割合
年齢	18.65	1.85	18	61.26%

表3 回答者の出身地（設問3）

選択肢	件数	割合
大阪	115	11.88%
東京	88	9.09%
広島	80	8.26%
兵庫	74	7.64%
沖縄	72	7.44%
神奈川	59	6.10%
北海道	50	5.17%
長崎	43	4.44%
福岡	37	3.82%
京都	31	3.20%

\*但し、上位10都道府県のみ

表4 回答者の性別（設問4）

選択肢	件数	割合
A 男	514	53.10%
B 女	442	45.66%
C その他	5	0.52%
無回答	7	0.72%

表5 原爆が最初に投下された都市の正解率（設問5）

選択肢（自由記述）	件数	割合
広島（正解）	932	96.28%
長崎	28	2.89%
それ以外	1	0.10%
無回答	7	0.72%

表6 原爆が2番目に落とされた都市の正解率（設問6）

選択肢（自由記述）	件数	割合
長崎（正解）	931	96.18%
広島	30	3.10%
無回答	7	0.72%

表7 都市①に原爆が投下された日付の正解率（設問7）

回答結果	件数	割合
1945年8月6日（正解）	867	89.57%
それ以外	74	7.64%
無回答	27	2.79%

表8 都市②に原爆が投下された日付の正解率（設問8）

回答結果	件数	割合
1945年8月9日（正解）	848	87.60%
それ以外	85	8.78%
無回答	35	3.62%

表9 原爆が落とされた都市について、どうやって知ったか（設問9）

選択肢	件数	割合
A 学校（先生や教科書）で学んだ	826	85.33%
B 家族から聞いた	37	3.82%
C 友人知人から聞いた	1	0.10%
D 被爆者の証言を聞いた	19	1.96%
E 本で読んだ	22	2.27%
F インターネットやSNSで知った	10	1.03%
G テレビで見た	36	3.72%
H 映画で見た	2	0.21%
I 音楽や歌で知った	1	0.10%
J その他	10	1.03%
無回答	4	0.41%

表10 原爆が落とされた都市に行ったことがあるか（設問10）

選択肢	件数	割合
A はい	673	69.52%
B いいえ	293	30.27%
無回答	2	0.21%

表11 原爆が落とされた都市にある資料館やモニュメントを見に行きたいか（設問10で「いいえ」と答えた人のみ回答）（設問11）

選択肢	件数	割合
A はい	267	27.58%
B いいえ	68	7.02%
無回答	633	65.39%

表12 米国が日本に原爆を投下したことに、どう思うか（設問12）

選択肢	件数	割合
A 許されない	518	53.51%
B 仕方ない	172	17.77%
C 正しかった	9	0.93%
D わからない	266	27.48%
無回答	3	0.31%

表13 その理由は何か（3つ以内）（設問12で「正しかった」「仕方なかった」と答えた人のみ回答）（設問13）

理由（3つ以内）	件数	割合
A 日本を降伏させ、戦争を早期に終結させるため	135	13.95%
B 日米のさらなる犠牲者を出さないため	66	6.82%
C 米国が原爆開発に多額の金を投じたことを国民に説明する必要があるため	5	0.52%
D 神風特攻隊のように自己犠牲をいとわない日本人の精神性にダメージを与えるため	17	1.76%
E 戦後の国際社会を見据え、参戦を予定していたソ連の優位に立つため	23	2.38%
F 日本がアジアを侵略した代償	30	3.10%
G 日本が真珠湾を攻撃し、戦争を始めたから	63	6.51%
H その他	8	0.83%
無回答	777	80.27%

表14 「被爆者」とは、どんな人たちが知っているか（設問14）

選択肢	件数	割合
A 知っている	901	93.08%
B 知らない	62	6.40%
その他	5	0.52%

表15 被爆者の証言を聞いたり、会ったりしたことはあるか（設問15）

選択肢	件数	割合
A ある	637	65.81%
B ない	328	33.88%
無回答	3	0.31%

表16 被爆者の証言を聞いてみたいか（設問16）

選択肢	件数	割合
A はい	806	83.26%
B いいえ	150	15.50%
無回答	12	1.24%

表17 1番聞いてみたいことは何か（設問16で「はい」と答えた人のみ回答）（設問17）

選択肢	件数	割合
A 何を見たのか	275	28.41%
B どうやって助かったのか	81	8.37%
C どんなけがをしたのか	11	1.14%
D つらかったことは何か	130	13.43%
E 米国を憎んでいないか	169	17.46%
F 今も苦しんでいることはあるか	127	13.12%
G その他	17	1.76%
無回答	158	16.32%

表18 コロナ禍をきっかけに、オンラインで被爆者と学生たちがつながり、被爆証言や核兵器を巡る議論を行うイベントが活発になりましたが、参加したことはあるか（設問18）

選択肢	件数	割合
A はい	41	4.24%
B いいえ	924	95.45%
無回答	3	0.31%

表19 実際にやってみて、どう感じたか（設問18で、「はい」と答えた人のみ回答）（設問19）

選択肢	件数	割合
A 出かなくて済むので便利で、参加しやすかった	26	2.69%
B 顔や表情がよくわかり、声もよく聞こえた	8	0.83%
C 聞こえづらくて不便だった	3	0.31%
D 臨場感に欠けて、物足りなかった	8	0.83%
E その他	0	0.00%
無回答	923	95.35%

表20 被爆者と出会う場や生の被爆証言を聞く場として、オンラインはコロナ禍以降も、有効な手段になると思うか（設問20）

選択肢	件数	割合
A はい	856	88.43%
B いいえ	20	2.07%
C どちらともいえない	82	8.47%
無回答	10	1.03%

表21 世界に約1万3400発（2021年1月時点）ある核弾頭を今後どうするべきだと思うか（設問21）

選択肢	件数	割合
A 完全になくすべき（廃絶）	474	48.97%
B 減らすべき（削減）	237	24.48%
C 今より増やすべきでない。新たに作らない	198	20.45%
D 増やすべき	0	0.00%
E わからない	55	5.68%
F 無回答	4	0.41%

表22 核兵器の保有は、戦争の抑止力（戦争の防止）につながると思うか（設問22）

選択肢	件数	割合
A つながる	505	52.17%
B つながらない	451	46.59%
無回答	12	1.24%

表23 核兵器が再び使われる可能性があると思うか（設問23）

選択肢	件数	割合
A 絶対に使われる	75	7.75%
B 使われる可能性は高い	531	54.86%
C 使われる可能性は低い	212	21.90%
D 絶対にない	3	0.31%
E わからない	140	14.46%
無回答	7	0.72%

表24 今年1月に核兵器を全面的に禁止する「核兵器禁止条約」が発効されたことを知っているか（設問24）

選択肢	件数	割合
A 知っている	614	63.43%
B 知らない	347	35.85%
無回答	7	0.72%

表25 核兵器禁止条約が発効した今、核廃絶の可能性をどう考えるか（設問25）

選択肢	件数	割合
A 被爆者が生きている間に実現する	49	5.06%
B 被爆者が生きている間に実現はしないが、遠い将来実現する	335	34.61%
C 可能性は低い	527	54.44%
D 可能性はない	52	5.37%
無回答	5	0.52%

表26 核兵器禁止条約を評価するか（設問26）

選択肢	件数	割合
A 評価する	551	56.92%
B 評価しない	95	9.81%
C どちらともいえない	318	32.85%
無回答	4	0.41%

表27 理由は何か（3つ以内）（設問26で「評価する」と答えた人のみ回答）（設問27）

選択肢（3つ以内）	件数	割合
A 開発、保有、使用、威嚇など核兵器を全面的に禁止しているから	344	35.54%
B 国際法として規範になるから	246	25.41%
C 条約が被爆者らの耐えがたい苦しみに触れ、核兵器の非人道性を強調しているから	250	25.83%
D 参加していない日本政府へのメッセージになるから	92	9.50%
E 核保有国や同盟国へのプレッシャーになるから	155	16.01%
F その他	3	0.31%
無回答	412	42.56%

表28 評価しないのはなぜか（3つ以内）（問26で「評価しない」と答えた人のみ回答）（設問28）

選択肢（3つ以内）	件数	割合
A 戦争被爆国の日本が参加していないから	48	4.96%
B 条約ができて、核がなくなるわけではないから	60	6.20%
C 核保有国や同盟国が参加しておらず、実効性に疑問があるから	75	7.75%
D 核拡散防止条約（NPT）で核廃絶の取り組みは進んでいるから	5	0.52%
E その他	3	0.31%
無回答	850	87.81%

表29 日本は核兵器禁止条約に参加（署名、批准）すべきだと思うか（設問29）

選択肢	件数	割合
A はい	860	88.84%
B いいえ	100	10.33%
無回答	8	0.83%

表30 日本が米国の「核の傘」に入っていることについてどう思うか（設問30）

選択肢	件数	割合
A 被爆国として理解できず、外れるべきだ	214	22.11%
B 北朝鮮や中国など近隣の脅威がある以上、日本の防衛のためには理解できる	381	39.36%
C 日米関係を悪化させてはいけなくて、核の傘は仕方ないが、絶対に使わせてはいけなくて	341	35.23%
D その他	24	2.48%
無回答	8	0.83%



表31 日本は、核兵器禁止条約の発効（今年1月）から1年以内に開催が予定される「締約国会議」に、第三者として傍聴する「オブザーバー」として参加すべきだと思うか（設問31）

選択肢	件数	割合
A はい	706	72.93%
B いいえ	30	3.10%
C どちらともいえない	218	22.52%
無回答	14	1.45%

表32 核兵器による惨劇を防ぐには、何が必要だと思うか（3つ以内）（設問33）

選択肢（3つ以内）	件数	割合
A 歴史教育	638	65.91%
B 広島、長崎からの発信や平和活動	481	49.69%
C 政治家、権力者、著名人の努力	295	30.48%
D 核兵器禁止条約への批准、履行	362	37.40%
E 国、民間レベルでの相互交流	411	42.46%
F 反戦、反核に取り組む政治家への投票	119	12.29%
G その他	19	1.96%
無回答	3	0.31%

#### 4. 若干のまとめ

2020年開始の学生平和意識調査の目的の一つは、「唯一の戦争被爆」の日本が標榜し、被爆地「ヒロシマ」・「ナガサキ」が切望する「核なき世界」を実現する有効な国際規範ともなる核兵器禁止条約に、なぜ日本が署名・批准しないのか、その背景要因を探ることでもあった。筆者の一人である川野は、特に「核兵器禁止条約とヒロシマの役割」という視点からこれまで様々な場で発言してきた<sup>2</sup>。そこでは、大多数の日本人が「核なき世界」を願い、圧倒的多数の被爆者がその実現を熱望し、同時に両者の大多数は、核兵器禁止条約へ賛同する一方で、多くの日本人は日米安保の重要性、核抑止の有効性、核兵器が今後使われる危険性を指摘するという実態を提示してきた。これは、とりもなおさず、日本政府あるいは多くの日本人が理想とする「核なき世界」と核抑止が機能すると考えるいわば現実的な価値観との間にあるギャップ、乖離の反映であろう。そして、それは、多くの日本人が持つジレンマであり、かつ、「核なき世界」の理念を牽引してきた被爆者でさえ併せ持つジレンマでもある。一般論として、これらの理想と現実とのギャップは、容易に想像しうることであるが、本アンケート調査結果は如実にそ

<sup>2</sup> 例えば、雑誌等であれば、『潮』2018年9月号（64-69）、『前衛』2018年6月号（111-121）など。講演会等であれば、特定非営利活動法人ANT-Hiroshima・ピースポート・平和首長会議（公益財団法人平和文化センター）主催シンポジウム「核兵器禁止条約と市民社会の果たす役割～核兵器廃絶へ向かうこれからの道のり～」（2020年11月3日。なお、シンポジウムの様子はYouTubeで公開されている。<https://www.youtube.com/watch?v=hO1DTX5-kvY>、2022年2月21日アクセス）、創価大学平和問題研究所連続セミナー（Webinar）「SDGsの促進と核兵器禁止条約－核兵器禁止条約締約国会議に向けての課題」（なお、そこでの講演『核兵器禁止条約と「ヒロシマ」』は『創大平和研究』第36号（印刷中）に所収されている）など。その他、2021年1月23日付『中国新聞』などで発言。

の現実を私たちの前に提示し、同時に、それを克服する困難さも明示する。

本稿で紹介した2021年の学生平和意識調査においても、これまで筆者らが指摘してきたことと同様の結果が出た。つまり、<理想としての「核なき世界」>と<現実としての「核の傘の下にあることは仕方ない」・「核兵器は戦争を抑止する」>との間に存在する乖離が如実に現れている。特に、「ヒロシマ」・「ナガサキ」は、核兵器禁止条約発効をめぐる顕在化したこのギャップ・ジレンマを如何に克服し、乗り越えて「核なき世界」を目指すのか、という重い課題を突き付けられている。誤解を恐れずに言えば、「ヒロシマ」・「ナガサキ」は、理想と現実の間で浮流し、さらには孤立する可能性さえある。そうならないために、「ヒロシマ」・「ナガサキ」の被爆体験は、この国の人たちに共有され、さらには世界で共有される必要がある。

この学生平和意識調査は、特に、その共有化を誰と進めればよいのかを明示している。そして、これは、「ヒロシマ」・「ナガサキ」が抱える今日的な重要課題である被爆体験継承のあり方を考える意味でも重要な示唆を与えるのである。

## 付言

本稿をまとめている最中に、ロシアのウクライナへの軍事侵攻がはじまり、2022年3月7日現在でも多くの国民が死傷し、100万を超えるウクライナ人が隣国へ避難している。ロシア軍は、ウクライナ南東部にあるザポリージャ原発も制圧した。こういった蛮行を非難することは容易いが、あらためて「唯一の戦争被爆国」、そして原爆被爆被害を経験した「ヒロシマ」・「ナガサキ」は、何を発信し、どう対応するのか。まさに試されている。さらに、このウクライナへの軍事侵攻というロシアの蛮行は、核兵器と原発の是非をめぐる議論の分岐点ともなりうる。つまり、前者でいえば、核抑止の有効性を真剣に議論する人たちが増えることが容易に想像できるし、後者でいえば、自国のエネルギーは原子力でも賄う必要があるという議論が進むかもしれない（同時に、制圧され危険に晒されるという脅威も議論されるかもしれない）。何れにせよ、核兵器の存在の是非をめぐる、核抑止の有効性はさらに議論されるであろうし、核兵器の脅威は身近なものとして認識されるであろう。軍事という力による世界へと回帰した感さえある。第二次世界大戦以後、国連を中心に構築してきた国際協調主義はもろくも崩壊し、第二次世界大戦以前の世界に一気に逆流した気さえする。とにかく嫌な時代である。

【本稿における「4. 若干のまとめ」と「付言」については筆者らの見解である。特に、「付言」については、調査結果を反映するものではないことを明記しておく。】

## 謝辞

本アンケート調査は下記の先生方にご協力いただきました。学生の平和意識を知ることは、次世代の日本のあり方を考える上でも大変重要なことです。あらためて、著者兩名より御礼申し上げます（以下、所属学部・大学院・講座等は割愛させていただきます）。

北海道大学：山田義裕教授、西川克之教授、大野公裕特任教授、田代亜紀子准教授、土永孝准教授、景山弘幸非常勤講師（札幌大学教授）

明治学院大学：高原孝生教授

明星大学：竹峰誠一郎教授

関西大学：城下英行准教授

広島大学：山根達郎准教授、小宮山道夫准教授、友次晋介准教授、（ファンデルドゥース ルリ、川野徳幸）

長崎大学：戸田清教授ほか平和講座（1Q）担当の先生方

琉球大学：上地完治教授、前田貴洋講師

沖縄国際大学：秋山道宏准教授

また、データ集計は広島大学平和センター教育研究補助職員衛藤優子さんの助力を得た。

本研究は、日本学術振興会科学研究費補助金（19H04355および19K23247）の成果である。

## 巻末資料

「被爆76年学生平和意識調査」(読売新聞、広島大学平和センター)

- 問1 あなたの所属大学はどちらですか(例・〇〇大学)
- 問2 あなたの年齢(2021年6月1日時点)はいくつですか
- 問3 出身地はどこですか
- 問4 性別を教えてください
- A 男
  - B 女
  - C その他
- 問5 原爆が最初に落とされた都市①はどこですか(自由記述)
- 問6 原爆が2番目に落とされた都市②はどこですか(自由記述)
- 問7 都市①に原爆が投下された日付はいつですか
- 問8 都市②に原爆が投下された日付はいつですか
- 問9 原爆が落とされた都市について、どうやって知りましたか
- A 学校(先生や教科書)で学んだ
  - B 家族から聞いた
  - C 友人知人から聞いた
  - D 被爆者の証言を聞いた
  - E 本で読んだ
  - F インターネットやSNSで知った
  - G テレビで見た
  - H 映画で見た
  - I 音楽や歌で知った
  - J その他
- 問10 原爆が落とされた都市に行ったことがありますか
- A はい
  - B いいえ
- 問11 設問10で「いいえ」と答えた方にお聞きします。原爆が落とされた都市にある資料館やモニュメントを見に行きたいですか
- A はい
  - B いいえ
- 問12 米国が日本に原爆を投下したことについて、どう思いますか
- A 許されない
  - B 仕方ない
  - C 正しかった
  - D わからない

問13 設問12で「正しかった」「仕方なかった」と答えた方にお聞きします。その理由は何ですか（3つ以内）

- A 日本を降伏させ、戦争を早期に終結させるため
- B 日米のさらなる犠牲者を出さないため
- C 米国が原爆開発に多額の金を投じたことを国民に説明する必要があるため
- D 神風特攻隊のように自己犠牲をいとわない日本人の精神性にダメージを与えるため
- E 戦後の国際社会を見据え、参戦を予定していたソ連の優位に立つため
- F 日本がアジアを侵略した代償
- G 日本が真珠湾を攻撃し、戦争を始めたから
- H その他

問14 「被爆者」とは、どんな人たちか知っていますか

- A 知っている
- B 知らない

問15 被爆者の証言を聞いたり、会ったりしたことはありますか

- A ある
- B ない

問16 被爆者の証言を聞いてみたいですか

- A はい
- B いいえ

問17 設問16で「はい」と答えた方にお聞きします。1番聞いてみたいことは何ですか

- A 何を見たのか
- B どうやって助かったのか
- C どんなけがをしたのか
- D つらかったことは何か
- E 米国を憎んでいないか
- F 今も苦しんでいることはあるか
- G その他

問18 コロナ禍をきっかけに、オンラインで被爆者と学生たちがつながり、被爆証言や核兵器を巡る議論を行うイベントが活発になりましたが、参加したことはありますか

- A はい
- B いいえ

問19 設問18で、「はい」と答えた方にお聞きします。実際にやってみて、どう感じましたか

- A 出かなくて済むので便利で、参加しやすかった
- B 顔や表情がよくわかり、声もよく聞こえた
- C 聞こえづらくて不便だった
- D 臨場感に欠けて、物足りなかった
- E その他

- 問20 被爆者と出会う場や生の被爆証言を聞く場として、オンラインはコロナ禍以降も、有効な手段になるとおもいますか
- A はい
  - B いいえ
  - C どちらともいえない
- 問21 世界に約1万3400発（2021年1月時点）ある核弾頭を今後どうするべきだと思えますか
- A 完全になくすべき（廃絶）
  - B 減らすべき（削減）
  - C 今より増やすべきでない。新たに作らない
  - D 増やすべき
  - E わからない
- 問22 核兵器の保有は、戦争の抑止力（戦争の防止）につながるとおもいますか
- A つながる
  - B つながらない
- 問23 核兵器が再び使われる可能性があると思えますか
- A 絶対に使われる
  - B 使われる可能性は高い
  - C 使われる可能性は低い
  - D 絶対にない
  - E わからない
- 問24 今年1月に核兵器を全面的に禁止する「核兵器禁止条約」が発効されたことを知っていますか
- A 知っている
  - B 知らない
- 問25 核兵器禁止条約が発効した今、核廃絶の可能性をどう考えますか
- A 被爆者が生きている間に実現する
  - B 被爆者が生きている間に実現はしないが、遠い将来実現する
  - C 可能性は低い
  - D 可能性はない
- 問26 核兵器禁止条約を評価しますか
- A 評価する
  - B 評価しない
  - C どちらともいえない
- 問27 設問26で「評価する」と答えた方にお聞きします。理由は何ですか（3つ以内）
- A 開発、保有、使用、威嚇など核兵器を全面的に禁止しているから
  - B 国際法として規範になるから
  - C 条約が被爆者らの耐えがたい苦しみに触れ、核兵器の非人道性を強調しているから
  - D 参加していない日本政府へのメッセージになるから

E 核保有国や同盟国へのプレッシャーになるから

F その他

問28 問26で「評価しない」と答えた方にお聞きします。評価しないのはなぜですか（3つ以内）

A 戦争被爆国の日本が参加していないから

B 条約ができて、核がなくなるわけではないから

C 核保有国や同盟国が参加しておらず、実効性に疑問があるから

D 核拡散防止条約（NPT）で核廃絶の取り組みは進んでいるから

E その他

問29 日本は核兵器禁止条約に参加（署名、批准）すべきだと思いますか

A はい

B いいえ

問30 日本が米国の「核の傘」に入っていることについてどう思うか

A 被爆国として理解できず、外れるべきだ

B 北朝鮮や中国など近隣の脅威がある以上、日本の防衛のためには理解できる

C 日米関係を悪化させてはいけなくて、核の傘は仕方ないが、絶対に使わせてはいけない

D その他

問31 日本は、核兵器禁止条約の発効（今年1月）から1年以内に開催が予定される「締約国会議」に、第三者として傍聴する「オブザーバー」として参加すべきだと思いますか

A はい

B いいえ

C どちらともいえない

問32 「核兵器」と聞いて、思い浮かぶイメージを一言で表現してください（自由記述）

問33 核兵器による惨劇を防ぐには、何が必要だと思いますか（3つ以内）

A 歴史教育

B 広島、長崎からの発言や平和活動

C 政治家、権力者、著名人の努力

D 核兵器禁止条約への批准、履行

E 国、民間レベルでの相互交流

F 反戦、反核に取り組む政治家への投票

G その他

問34 世界の平和を脅かすものは何だと思いますか。核なき世界の実現へ向け、被爆国日本の体験は、どんな影響力を持ち得るでしょうか。未来の平和のために、あなただったらどんなことをしたいですか（自由記述）

問35 あなたにとって、「平和」とは何ですか（自由記述）